



一般社団法人
おもやい
活動報告
2024&2025



おもやいの最新情報は
HPやSNSでも発信しています



ホームページ



Facebook



Instagram



X(旧Twitter)

2024年

災害時も日常も 分かち合う安心



訪問活動

(令和元年・3年の水害で被災された高齢世帯・その他各種生活サポートなど)



西九州大学オカベース、(一社)みんなの居場所はちはちと共に訪問活動を実施しました。特に気になる方へは必要に応じて関係機関へとおつなぎするなどの対応を行ないました。

また、令和元年から味の素冷凍食品株式会社より冷凍食品の提供をいただきました。こうした食品を活用させていただいての訪問によってつながりの継続を後押してくれています。冷凍餃子、ゼリーなど食べやすいものが多く、とても喜ばれています。

サロン活動

私たちの事務所である地域共生センターそよぎでNPO法人タクティールケアさんのサロンやヨガ教室、セラピストチームほっこりーずの「いやしの日」を開催しました。

多機能拠点としてさまざまな団体に活用していただいている、今後もさらに多くの方に活用していただき共に活動していきたいと考えております。参加者からは、「次はいつ開催されるのかな？」と楽しみにしているという声が届いています。

タクティールケア 9回開催

ヨガ教室 21回開催

いやしの日 4回開催



拠点での主催イベント

能登半島地震の対応もあり、回数は少なかったのですが、季節ごとのイベントなどを定期的 to 実施しました。

地域の方やボランティアの仲間に歌っていただいたり、毎年恒例になったしめ縄教室では翌年の平穏を願い、お互いに協力しながらしめ縄作りをしています。

1月 おもやいお茶会

3月 ひな祭り

4月 アロマ体験

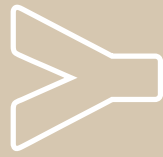
8月 夏祭り

12月 クリスマス会&しめ縄教室



子どもたちが 元気に暮らせるまちに

2024年



おもやいフードリンク事業の実施

計20回開催 のべ1,197世帯、大人1,721人、子ども2,788人に配布

令和5年度では登録世帯が115世帯だったのが現在130世帯（令和7年1月現在）へと増加し、食料配布利用については令和5年ののべ利用世帯944世帯3,593人に対して令和6年ののべ利用世帯が1,141世帯4,251人と120%の増加となっています。さらに令和6年で利用されているひとり親世帯はこのうち約60%に上ります。

武雄市こどもの貧困対策課・笑顔コーディネーターやスチューデントサポートフェイス（武雄若者サポートステーション）、スクールソーシャルワーカーなどとの連携により対象世帯数が増加していますが、一方で個々の世帯が抱えている課題などは単一ではなく複合化している状況もあり、早期課題解決とは結びつかないものが多いとなっています。



子どもの遊び場を開催

計19回 利用者数延べ375名
（平均約20名の利用）

親御さんからは「近くに同じくらいの子供がいないから、遊び場がある時はとにかく嬉しくて学校に行ってるんです」というお声をいただきました。子どもたちののびのび過ごしている一方で、参加人数が多くなればなるほど見守る側のスタッフの体制も留意しておく必要があります。



そよぎ学習塾の実施

計36回、延べ249人（平均7名）

みんなの居場所はちはちと協働で毎週火曜日に無料の塾を開校し、前年度より開催回数は大幅に増えました。勉強後には栄養バランスを考えた夕食も提供しました。

本年度3月の受験では、高校への進学希望者全員が合格されました！子供達が頑張る姿に私たちも励まされ、頑張りに結果が出たことがとても嬉しかったです。



地域食堂「そよぎ de ごはん」の実施

みんなの居場所はちはちと協働で10回実施し、のべ763人（大人375人、子ども388人）が利用されました。

地元の方や西九州大オカベース等の運営協力、企業や農家さんからの食糧支援のもと、季節に合わせた野菜たっぷり栄養満点の様々なメニューを振る舞い、喜んでいただきました。

平均して76.3名が来場され、昨年の平均60人から大幅増となりました。

割合としては特に大人の利用者が増加しています。地域に根ざした活動として今後も継続して実施していきます。



2024年

災害に負けないまちに



会員制「おもやい防災あんしんセット」の実施

出水期前におもやい防災あんしんセットの更新会を地区行事に合わせて開催しました。令和2年から実施してきた500円での配布は今年度で最後とし、今後は希望者に実費で販売していきます。

合計 316世帯に配布



防災に関する勉強会・講習会の実施

佐賀県内を中心に、長崎県や大分県などでも防災に関する講習会等を実施しました。実際に被災地や避難所で見えて感じたことも活かしながら、少しでも役に立つ情報を伝えられるよう体験型やワークショップ形式にするなど内容を工夫しました。

合計21回 約790名が参加



武雄市・大町町との連携会議への参画

令和4年から続く会議への参加を継続しています。武雄市は2度の開催で、具体的な災害時における連携をしていくためのテーマを掲げ（炊き出し、避難所、物資）、それぞれどのような連携が可能かを現在も模索をしながら話し合いを続けています。

災害支援活動（相談業務も含む）

休眠預金活用事業（分配団体：佐賀災害支援プラットフォーム）を受けて、令和5年に発生した佐賀市・唐津市中山間地における豪雨による土砂災害によって被災した農地などの応急復旧対応事業を実施しました。

件数は20件弱となりましたが、今後大小関わらず、大雨による中山間地でのハザードを想定した時にこうした体制も検討する必要があります。

参加団体：シノモト林業、Public Gate合同会社、特定非営利活動法人つなぎレンガ座

before



after



上記はその内の1件の現場写真です。（佐賀市富士町）大量の土砂と流木が流れ込んでいる農地で、補助金対応だが流木は自己負担とのことでなかなか手を付けられず困っていました。流木の伐採、玉切り、重機で田圃の法面整地を行いました。近隣の住民さんや、チェーンソー研修に参加してしている消防士たちが参加してくれて現場訓練にもなりました。地域住民や研修などの平時のつながりが意味あるものにできるというヒントになりました。

宮崎県竜巻被害の訪問活動

台風に起因する竜巻被害が宮崎市内において発生し、宮崎文化本舗・YNFと連携して被災したエリアの訪問活動を実施しました。
実質、九州圏内におけるネットワークの構築につながっており、今後も南海トラフ地震を見据えての連携を模索していきます。

能登半島地震 災害支援活動

スタッフをローテーションで派遣しながら現地で活動している被災地 NGO 協働センターをサポートする形で現地での活動を実施しました。今年度はのべ711日の派遣となり、炊き出し・物資配布・片付けをはじめとして、地域からのニーズへ対応や各種イベントの企画・参加、地元の祭りへの参加を重ねて、地域住民の方々との交流も深めてきました。



避難所での足湯提供



9月に発生した豪雨の復旧
(輪島市)



武雄の事務所で
能登への物資をお預かり



九州からの物資を運搬



地元の皆さんが開催されたマルシェのお手伝い

収支報告 (2024年1月～12月)

支出
¥34,894,803

支出内訳

項目	金額
人件費	¥14,022,173
委託費	¥2,210,000
諸謝金	¥1,144,440
印刷製本費	¥393,348
旅費交通費	¥1,845,238
通信費	¥369,030
消耗品費	¥3,577,967
修繕費	¥750,459
水道光熱費	¥644,832
車両費	¥1,578,349
保険料	¥381,180
地代家賃	¥540,000
管理費	¥7,437,787

収入
¥36,640,396

収入内訳

項目	金額
年会費	¥44,000
寄付金	¥5,420,801
助成金	¥24,260,277
委託費	¥5,047,039
その他収入	¥1,868,279

収支差額
¥1,745,593

前年度繰越額	¥64,796,163
次期繰越正味財産額	¥66,470,756

次期繰越正味
財産額内訳

固定資産	¥58,192,416
前受助成金	¥5,272,977
現金預金	¥3,005,363



武雄での活動

2025年

訪問活動・ボランティア活動

(新型コロナウイルス感染対策・生活困窮の方々へのサポート含む)

2024年と同じく西九州大学オカベス、(一社)みんなの居場所はちはちと共に訪問活動を実施しました。特に気になる方へは必要に応じて関係機関へとおつなぎするなどの対応を行ないました。また、お困りごとや片付け依頼などにも各種対応をしました。今後もこうしたご近所へのお手伝いを行なっていきます。

サロン活動・居場所づくり事業

私たちの事務所である地域共生センターそよぎでNPO法人タクティールケアさんのサロンやヨガ教室、セラピストチームほっこりずの「いやしの日」を開催しました。施術ボランティアの皆さんと地元の皆さんもすっかり顔見知りになり、「あの人が来るなら出てこようかな」と外出を促すきっかけにもなっています。

タクティールケア 11回開催

ヨガ教室 17回開催

いやしの日 5回開催

また、子どもたちの居場所づくりとして「みんなの遊び場」を開催しました。見守る側の人数確保が難しく前年度より回数は減りましたが、今後もボランティアなどを呼びかけ実施をしていきます。

子供の遊び場 13回 利用者 213名

ボランティア 17名



イベント事業

2025年度は法人格取得から5年ということもあり、始まりの地【北方幼稚園】を借りて久しぶりのおもフェスを開催しました。令和3年の水害以降放置されていたため、草も伸び切り屋根も一部崩壊していたため事前準備がとても大変でしたが、地元の方が「おもやいさん、手伝いに来ようか?」と声をかけてくださり草刈りからお手伝いいただきました。当日は令和元年豪雨の時に来てくださった広島や大阪のボランティアさん、能登半島地震で出会った石川県七尾市の方々も来場していただき、トークショーでお話もしていただきました。

また、12月には毎年恒例のしめ縄づくりも開催しました。この季節になると地元の方から「おもやいさん、今年はせんとなね〜?」と声がかかるおもやい恒例イベントとして定着しています。来年も水害が起きませんように、と願いながら作りました。



みんなが安心して住める街に

おもやいフードリンク事業の実施

計23回開催 のべ1,374世帯、大人2,022人、子ども3,211人に配布

本年度も「独立行政法人福祉医療機構（通称：WAM）」からの助成金をいただきました。昨年度に引き続いてよりみちステーションと協働でおおよそ月1～2回を目処に配布会を実施しました。今年度は登録世帯が155世帯と前年度より25世帯増加しました。このうち一人親世帯は約62%となっています。

武雄市こども家庭課・笑顔コーディネーターやスチューデントサポートフェイス（武雄若者サポートステーション）、スクールソーシャルワーカーなどとの連携により対象世帯数が増加しています。一方で抱えている課題は複合化しており、早期課題解決とはいかないことが多くなっています。今後もこのフードリンク事業を軸としながら多面的なくらしのサポート機能を充実・発展させていくことが必要です。

しかし、本事業については収益化を見込める事業ではないため助成金への依存度が高く、毎年助成金を申請して、という自転車操業の状態が続いています。この事業を維持しながら、フードリンク利用世帯にとっての出口戦略に繋がるような事業を引き続き模索していきます。



地域食堂「そよぎdeごはん」の実施

計10回開催 利用者859名 ボランティア 80名

みんなの居場所はちはちと協働で地域食堂「そよぎdeごはん」事業を実施しました。利用者は平均86名と昨年度より12名程度増えています。また、大人と子供の利用割合もほぼ同数で、様々な世代の方が利用してくださいました。

地元の方やボランティアの方々が野菜など食材を寄付してくださり、ボランティアやオカベスなどの運営協力を得て、ほぼ毎月開催することができました。たくさんの方の協力のおかげで実施できていることに感謝しながら今後も継続していきます。



そよぎ学習塾の実施

計39回開催 利用者171名

みんなの居場所はちはちと協働で毎週1回無料塾を開催しました。昨年度より平均利用者は減少していますが、学期末やテスト期間になると参加者が増える傾向にあり一定の効果が確保されています。

課題としては講師の確保があり、地元の中学生在がボランティアとして参加してくれていますが、継続するためにボランティア講師の募集も呼びかけていきます。

国際交流カフェの開催

佐賀県国際交流協会からの助成金をいただき「おもやい国際交流カフェ」を実施しました。ルワンダで義足製作をされているご夫妻をお招きし、今のルワンダの現状などを教えていただきました。



防災に関する勉強会・講習会の実施

唐津市障がいのある人の避難所体験会（障害児とその親を応援する会smile）武雄市防災フェスタ、富士町防災フェスタ、災害VC設置訓練（武雄市社協）など計37回



令和7年度10月よりモデル地域として太良町を選定し、発災時に対応するための連携を模索する事業を休眠預金等活用事業【市町域の『災害中間支援組織』発掘・育成・きのう強化事業（資金分配団体：佐賀未来創造基金、佐賀災害支援プラットフォーム）】の助成金を使用して取り組みを始めています。（本事業については令和10年2月まで実施予定）

災害支援活動（県内・相談業務も含む）

令和6年度に引き続き唐津市浜玉町・佐賀市富士町での農ボラ（休眠預金活用事業）を実施しました。令和6年7月～令和7年3月までの期間で相談件数26件、応急復旧作業件数37件、ボランティア234名でした。個人所有の木、流木、資材が土砂に含まれている場合があり支援制度の対象外となって対応が難しい方や、制度対象でも自己負担が大きすぎる、期日までに手続きや工事の完了が難しいなどの理由で制度を利用できない方からの相談を受けました。

災害支援活動（県外）

・令和7年8月豪雨（熊本県玉名市・玉東町など）

熊本での豪雨を受けてオカベースと連携している玉名市の九州看護福祉大学の学生ボランティアグループ、CDSTおれんじびーすをサポートするため玉名市と玉東町を中心にお手伝いをしました。延べ200日を超える活動で、主に社協ボラセンでは対応できないニーズに対して活動しました。

玉名市では何かあった時に地元で対応できるように地元のボランティアさんと実際の家屋を使わせていただき復旧方法の研修も行いました。



・令和6年能登半島地震、能登半島豪雨（石川県七尾市・輪島市など）

今年度も被災地NGO協働センターのサポートとして活動を行い、のべ150日以上スタッフ派遣となりました。仮設住宅や拠点でのサロン活動や解体する家からまだ使える建具などのレスキューを行いました。また、拠点では月に1度マルシェを開催しており、武雄のレンコンや熊本のみかんを販売したところ、なかなか能登では手に入らないものなのでとても喜ばれました。



マンスリーサポーター

6月下旬から2ヶ月間、おもやいのマンスリーサポーターを募集させていただきました。継続支援があることで、活動の基盤を安定させることができます。これまでの活動を継続し、さらに、



災害時だけの地域での助け合いの連携をひろげ、誰もが安心して暮らせる地域づくりの実現のために、全力で取り組んでいきたいです。

おもやい避難ブック制作



グリーンコープ100円基金を活用しておもやい防災本第2弾としておもやい避難ブックという避難所運営の本を作成しました。

能登半島地震で目の当たりにした、災害が大きくなればなるほど行政主体の大きな避難所だけでは足りなくなる現実。自分たちの住んでいる地区で小さな避難所を運営する際に、どうやったら感染症を減らしたりより快適に運営できるか?という目線で作りしました。

収支報告 (2025年1月～12月)

支出

¥28,603,325

支出内訳

項目	金額
人件費	¥8,912,496
委託費	¥1,090,000
諸謝金	¥385,000
印刷製本費	¥684,153
旅費交通費	¥271,715
通信費	¥222,943
消耗品費	¥3,628,420
修繕費	¥214,492
水道光熱費	¥712,975
車両費	¥673,889
保険料	¥446,466
地代家賃	¥740,000
リース料	¥1,168,156
管理費	¥3,681,479

収入

¥25,018,472

収入内訳

項目	金額
年会費	¥58,000
寄付金	¥2,191,753
助成金	¥18,311,190
委託費	¥2,820,484
その他収入	¥1,637,045

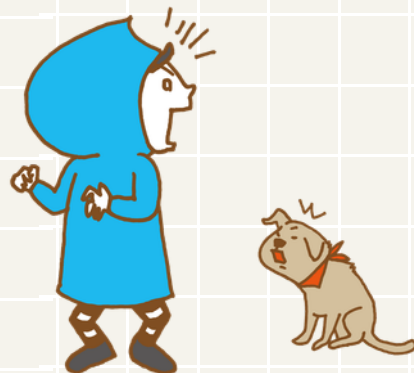
収支差額

¥-3,584,853

前年度繰越額	¥66,470,756
次期繰越正味財産額	¥62,885,903

次期繰越正味財産額内訳

固定資産	¥56,586,725
前受助成金	¥4,642,966
現金預金	¥1,656,212



助成をいただいた団体



佐賀県地域福祉振興基金



公益財団法人 佐賀未来創造基金

赤い羽根共同募金



おもやいスタッフより



代表 鈴木 隆太

おもやいがスタートして早7年が経過しようとしております。多くの方々が私たちの活動を支えてくださっているからこそ、ここまで活動が

継続できました。心より御礼申し上げます。7年もの間にいろんな方々とのご縁もあり、活動も多岐に亘っての取り組みとなりました。災害時も、平時においてもいかにお一人お一人の安心を確保できるのか、そのためにどんなお手伝いを私たちができるのか、ということ活動を中心に据えながら、困難なことがあっても楽しむことも忘れず、「おもやいがあった良かった」と思っていただけのような存在をこれからも目指して活動を進めてまいります。どうか今後ともよろしくお願いいたします！



鈴木 育子

私は、フードリンク事業(フードパントリーをご利用のご家庭のお困り事をお伺いして、そこから派生する活動)をしております。

いろいろなご家庭のお悩み事、お困り事を伺い、出来ることを一緒にやっていったり、いろんな機関の方と連携をして、お困り事が少しでも和らぐ方向に向かうといいな—という事をやっています。フードリンクをご利用されるご家庭は年々増える一方です。社会の大きな歪みが1番弱いところに出てくるのだな—と実感しております。いつもフードドライブやご寄付などで、心を寄せていただいている皆様に感謝申し上げます。



事務局 千綿 由美

事務局業務に携わり、はやくも6年。いつもスタッフやボランティアの皆様活動を後方から見

送るばかりですが、おもやいに関わってくださる皆さんの熱意や優しさにこそ支えられているなあ！と感謝の気持ちでいっぱいです。ひとりひとりができることで参加し続けてくださることが今のおもやいを形作っています。このような環境があることに感謝し、これからも守っていけるよう頑張っていきたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



中尾 真一

令和2年よりおもやいに参加して早くも5年が経ちました。その間に全国各地で被災された方々のところへ

お手伝いに回りました。お話を伺う中で、私に何ができるか？各地で会う地元地域の皆さん、全国から来るボランティアの皆さんたちから色々と教えていただきなんとか活動してきました。現在は平時からの地域のつながりや準備が備えとして大事だと教えてき、地元や各地で活動を続けています。これからもご支援頂いた皆さんの思いを行動で必要な方々へ届けていきます。



尾崎 真喜子

2024年から能登にも通いながら、佐賀では防災教室やSNSを主に担当しています。能登で目の当たりにした大規模地震の避難所や

在宅避難の大変さ、乗り越えるための工夫を次に活かしていかなければと考え、昨年は「おもやい避難ブック」を作成しました。

能登で出会った方々に貴重なお話を聞かせていただき、実際に役に立ったことや困ったことなども盛り込んでいます。

また、昨年11月に開催したおもフェスでも座談会で能登の皆さんにお話ししていただきました。これからも学ばせていただきつつ、自分にできることを考えていきたいです。



山本 恵理

おもやいの一員になって、初めて経験した事や場所、たくさんの方々との出会いの中で、こんなにも世界は多様で広いということを

日々教わっています。知識、技術、精神面...自分に足りないものが多すぎて悩む事ばかりですが、頭と体と心をいっぱい使って少しでも進んでいけたらと思います。大変な状況でもお気遣いの言葉を下さったりお話を聞かせて下さった皆さま、おもやいに通って下さる皆さま、応援して下さい皆さまへの感謝の気持ちを胸に、活動を続けていきたいです。

支えてくださっている皆さまから



被災地NGO協働センター代表 頼政 良太さん

おもやいの魅力は、その団体の名前にあるとおり、なんでも「おもやい」ということに尽きると思います。楽しいこと、面白いことを共有することで、新しいクリエイティブな活動がどんどん生まれる可能性が高まっていきます。そして、大変なこと、辛いこと、しんどいことも、みんなで共有することで、その人の負担が少しずつ少なくなっていくと思います。

いま地域にはさまざまな社会課題が溢れていて、持続可能性が大切だと言われています。じゃあ持続可能な社会ってどんな社会なのでしょう。それは、地域に暮らすみんなで、楽しいことも辛いことも、一緒になって背負っていき、みんなで知恵を出し合って暮らすことのできる社会なのではないでしょうか。おもやいはそんな社会を作り出す一つの装置になっているのではないかなと思います。



被災地支援チームOKBASE代表 / 西九州大学社会福祉学科准教授 岡部由紀夫先生

「おもやい」とともに活動を始めて、今年で8年目になります。きっかけは、令和元年に発生した佐賀豪雨災害でした。それまで、まさか佐賀県で大きな災害が起こるとは思っていなかった私ですが、実際に災害が発生し、地元の大学として何か行動を起こさなければならないという思いに駆られて動き出しました。



被災家屋の片づけだけでなく、住民の皆さん一人ひとりに丁寧に向き合い、今後の生活をどうしていくかを共に考えるその姿勢は、まさに福祉の原点を感じさせるものでした。こうした経験を通して、学生メンバーとともに「おもやい」や連携する災害支援団体・ボランティアの皆さんから多くのことを学びながら、私たちは現在まで活動を続けさせていただいています。

建築ボランティアネット 満原早苗さん

結成当初からおもやいは災害ボランティア団体では多分珍しく女性が多いチーム。しかもみんなおしゃべりで、鈴木代表をさしおいて言いたい放題言うてきました。いろんなジャンルのメンバーが集まり、遠慮せず言いたい放題、みんなで言い合いました。

言いたい放題言うても、馬鹿にしたり否定したりせず、どうすればそれが実現できるか冗談交えて大盛り上がりしながら話していたことが本気に発展していききました。「おもやい」とは、（共有・分かち合い）という意味がありますが、まさにおもやいでした。

まとめるのは大変だったかと思いますが、あの段階でやれることを限定したりしなかったから、今のような、他にはきっとないおもやいのカタチができたのだと思います。



KBC九州朝日放送アナウンサー 長岡大雅さん

九州の色々な被災地に入らせてもらいましたが、こんなボランティアセンターありません。これからの地域のためにも、この国のためにも、ひとつのモデルとしても、絶対になくなっちゃいけません。

いまは能登でも活動をし続けてくれていて、その優しさは武雄を飛び出しています。「おもやいあるところに笑顔がある」災害復旧作業の延長線上に、イベントなども企画してくれる、これこそが「復興」に向けた思いなのだと、いつも思い知らされます。



武雄市北方町婦人会長 宮原 祐子さん

令和元年・三年と立て続けに大水害に見舞われた私の住む町。灯りのない暗闇の町を忘れません。

後片付けで疲労困憊の時におもやいさんに声をかけてもらい、物心両面でたくさんの支援をしていただきました。最初は「なんでここまでしてくださるのだろう？」と多少不思議な感じもありましたが、今に至るまでその姿勢はなんにも変わることなく、多くの方々に寄り添ってもらっています。感謝！感謝！！の一言です。

おもやいへのご支援をお願いします

現在災害のみならず、地域における課題解決に向けた取り組みをさせていただいております。しかし、日々おもやいに来る相談は増えており、対応したくても余力がない場面も出てきそうな状態です。お一人でも多くの方にご協力を賜りますこと、どうぞよろしくお願いいたします！

■ ふるさと納税

※ふるさと納税での寄付は
税制優遇が受けられます。

佐賀県ふるさと納税ページより

102)一般社団法人おもやいをご指定ください。

返礼品はありません。

お礼状と活動報告書をお送りいたします。



■ 銀行振込によるご寄付はこちら

※税制優遇の控除対象ではありません。

ゆうちょ口座

店名(店番) 一七九(イチナナキュウ)店(179)

当座 015271

口座名称: シャ) オモヤイ

地域共生センターそよぎの 貸しスペースを利用しませんか？

セミナーや講演などでのホール貸出を行っています。使用料は1時間あたり¥2,000- (税込)

別途エアコン使用料¥500-/h (税込)

会議テーブル、椅子、スクリーン、プロジェクターなどもご利用いただけます。上限40名程度

過去のご利用例

- ・勉強会
- ・マルシェ開催
- ・交流会



映画鑑賞会の様子

食品（お野菜や乾麺など） を募集しています



毎月1～2回開催している『フードリンク』というフードロス対策と食料配布の事業で食品を募集しています。ご自宅で作りすぎたお野菜や、賞味期限は切れていないけれど食べきれない乾麺やお菓子などはありませんか？量が多い場合は取りに伺うことも可能です！

受け取り場所

- ・地域共生センターそよぎ（おもやい事務所）
事前の電話をお願いします
- ・ゆめタウン 武雄さま 1F
（日持ちするもののみ）



防災教室や講演会などの講師派遣

自主防災組織や児童クラブなどで防災教室を開催しませんか？災害現場で本当に役に立った防災グッズや、避難所運営ワークショップなどニーズに合わせた担当者がお話しさせていただきます。

時間 内容に合わせて30分～1日 料金 3万円～（予算が少ない場合はご相談ください）

人数 何名でも

この他にも防災まちあるきやおすすめ防災グッズの体験などご希望に合わせてアレンジします



家屋模型を使った
水害復旧方法の説明



避難所環境改善
ワークショップ



防災バッグ
ワークショップ



耐熱ビニール袋を
使った節水クッキング



一般社団法人おもやい

佐賀県武雄市北方町大字志久1759

TEL&FAX 0954-33-0444（木曜定休）

E-Mail omoyaivc@gmail.com